婦人と新社會

山田わか主筆

九月號

毎月一回一日發行　第拾九號　大正十年九月一日發行

新婦人問題

本書は戰後新たに起り來つた婦人問題に對して將に目醒めつゝある日本の婦人に研究の手引を與ふべく、國民新聞社が催した婦人講習會の講演を輯錄したものである。

◘總　論　侯爵　大隈重信

…人間思想の三分化…婦人の新思想…戀愛と道德…男女問題…子供問題…道德的破産…天職にに目醒めよ

◘家族制度　文學博士　吉田靜致

…精神生活としての家…日本の家族制度…我國體の特性…精神生活の無限性…同異中心主義…特殊即普遍主義…家族制度の變遷…力と正義…改造論の缺點…キッドの「力の科學」…社會的遺傳…婦人尊重論…自利主義を排す

◘兩性問題　醫學博士　永井潛

…新しい大なる手…男女の根本義…單細胞生物と多細胞生物の生殖…睪丸移植又は睪丸エキスの注射…去勢…内分泌…女子の脂肪と骨盤…男女と子供性…兩性の比較…腦重と男女の優劣強き者よ汝は女なり…何時迄も若さを保つ事…婦人の自覺…婦人解放論二種

◘女子教育　東京女高師校長　湯原元一

…迂遠なる教育…何故に女子教育は後れたる乎…男女二元論…婦人參政と教育…ローマンティズムと科學的修養…男性化の誤解…高等教育と家庭の荒廢…男女共學問題

◘婦人參政　衆議院議員　植原悅二郎

…議論より實行へ…自治制の實無き日本…權利の保護…女子の天職と參政權…緩和劑としての婦人…男女性格の相違…良妻賢母主義…人形の家…男女の生存競爭…パンカーストの活躍…絕食同盟…伯爵令孃の絕叫…時期到來…黎明期の日本婦人

◘思想問題　早大教授　杉森孝次郎

…婦人解放の叫び…近代思想の特質…人格個性に關する大發見…國民主義と國際主義…露西亞革命と國家社會…婦人解放から子供解放…階級鬪爭と人格の叫び…樣々の偶像破壞運動…產業革命後の個性主義…個性とは何ぞや…自治と責任と創造と…新道德に向つて進め

四六判美裝 三六四頁　定價壹圓八拾錢 郵税二十錢｜東京京橋區日吉町 振替一三一〇〇　民友社

婦人と新社會

九月號

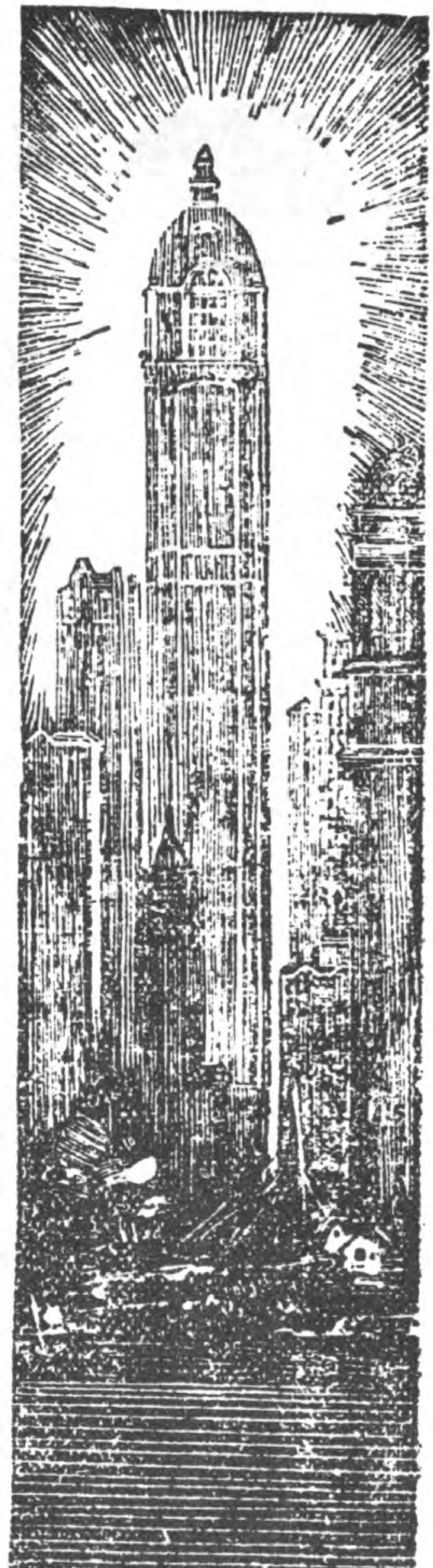
進歩とは人と人との合理的な圓滿な關係と云ふことです。宗教、哲學、文學藝術、法律、其の他一切の文物制度は、皆、人間を社會化しようとして設定された機關であります。

元始時代の社會制裁の精神が今猶最も進歩した其れ等の社會制度のうちに現れてゐます。

元始的な國民のうちに發見される社會制裁、巧みな、標準化された、權威ある組織を研究して見ると、個人を社會化することの仕事がどんなに困難であつたかと云ふことがあり〳〵と見へます。一切の習慣が、皆、社會に對する義務を負はしめようとすることに集中されてゐます。そして、其の習慣に從はない人間は無頼漢として排斥され、浮浪人となつてゐます。

一社會から排斥された其の浮浪人の生活は實に悲慘なものでありました。從つて、社會秩序に、つまり、風俗習慣に從ふことが結局最善な生活の方法であつたのです。

社會生活は團體の必要から起つたもの、團體の必要は敵に對する防禦、自然界を制服するに集合的の力を要したこと、及び個人の情緒的生活の増進を要求する處から起つたもので、此處に、家庭と相待つて社會の基礎が出來たのであります。



婦人問題の社會學的基礎

婦人問題に對する批評の時代は、もう、過ぎて、今は、實行の時代、則ち、實際運動の時代に這入つてゐることは世間の先覺者達が既でに承知してゐる事實でありますが、併し、婦人の生活の根本となるものを忘れてゐて、そして、單に枝葉の事柄に心を捕はれて居たのではいつ迄たつても滿足な解決は得られません。

どんなに男が威張つても男の生活に女が加はつてゐないならば、男は決して幸福でないと同じやうに、女がどんなに頑張つても男の理解と男の補助が無かつたならば婦

人は決して婦人としての使命を完成することは出來ません。
性の差別を撤排しようとする婦人論の生物學的基礎、則ち、生理的の基礎を研究して見るならば、結局、婦人は男子より劣つてゐるものではないが、併し、同じものではないと云ふことを益々明らかにし、そして、婦人の經濟の獨立を主張する經濟學的基礎、則ち、經濟的の基礎を研究して見ると、これも、女權主義者の考へとは反對に男子が生產者であつて女子が消費者であると云ふことがあらゆる方面から立證されます。
其處で、社會學的基礎の上に載つてゐる母性から出立した婦人論でなければならないと云ふことになります。今日の社會が必要とする處のものはより多く生產すると云ふこと許りではありません。より多く生產すると同時に、愛をより豐富にしなければなりません。此の愛の力が社會を動かす半分の力、衣食の料を得ようとする力が、もう半分の社會を動かす力であると云ふことは今迄にも度々申ましたが、此の二つの力を聯合させるものは家庭であつて、そして、其の家庭の中心は母であります。

女權主義者の云ふ婦人の自由とか、獨立とか云ふものは今日の法律や習慣が男子に許してゐる自由であり獨立であるのです。けれども、其の自由と獨立を持つてゐる今日の男子の生活が完全であり幸福であるかと云ふに、私は、決してさうでないと思ひます。そんならば、そんな不完全な自由や獨立を得るために婦人が大騒ぎして精力を無駄にすることは馬鹿なことだと思ひます。

本當の意味の自由と云ひ、獨立と云ふものは生れるものであつて獲得すべきものではありません。なぜなら、自由と云ひ獨立と云ふものは唯關係に過ぎないものです。關係だと云ふ證據には絶對の自由だとか絶對の獨立だとか云ふものは無い、必ず、或るものに制限されてゐます。ですから、政治上で云ふならば治者と被治者との圓滿な關係、社會的に云ふならば男女が其の本來の立場に置かれた圓滿な男女關係、其の關係のうちに自由と獨立があるのです。

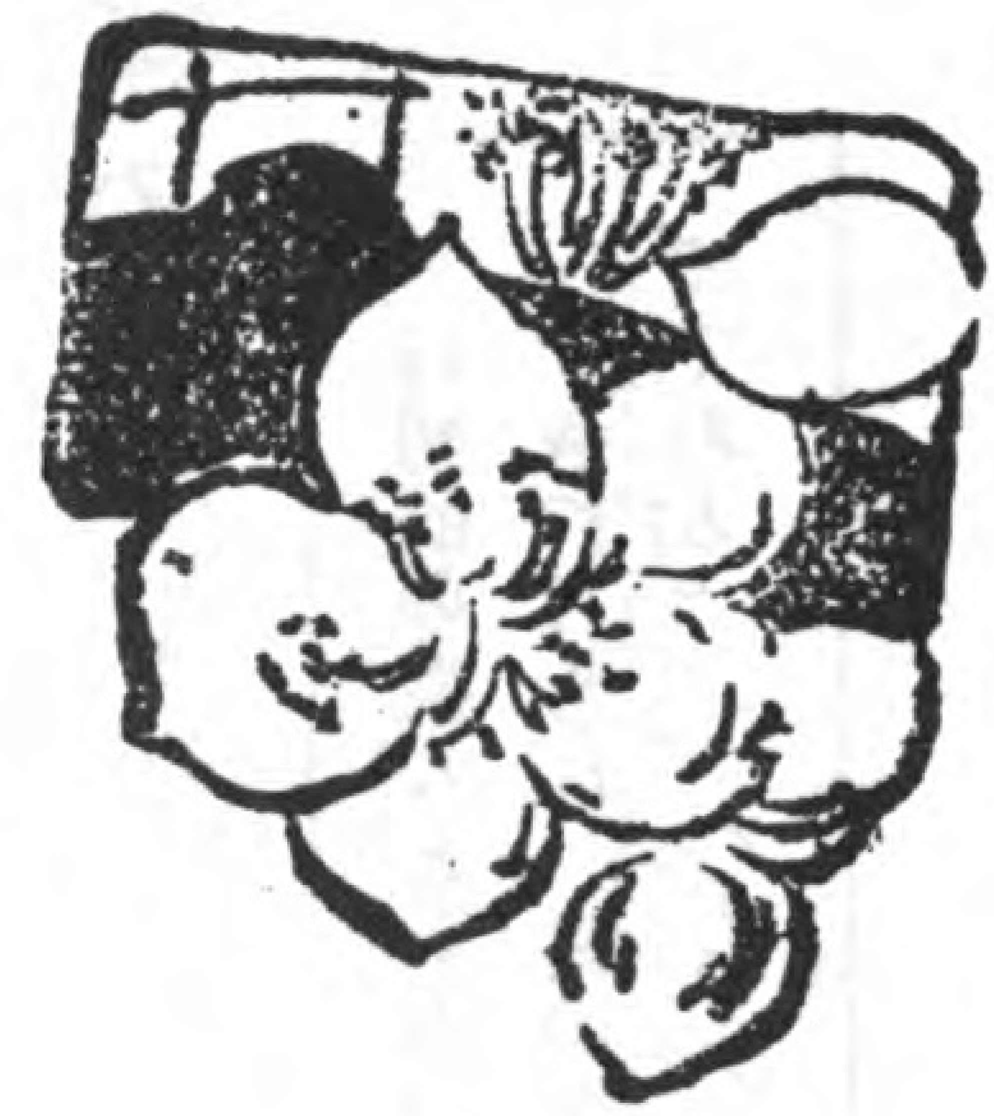
ですから、女が男性化したり、男が女性化したりしたのでは其處に圓滿な關係はなく、女が女らしくあり、男が男らしくあることによつて凡ての關係が圓滿になり完全

になり、其處に自由と獨立があるのです。

要するに、有効な婦人論は社會學的の見地から母性に基礎を置き、男女の分業を認め、母性に付いての男子の理解と婦人の自覺とを促すものでなければならないのであります。

ツイ、此の頃迄、英米の婦人論者も、主もに、經濟と政治の方面に婦人の權利を伸長しようとして經濟の獨立とか參政權の獲得とか云ふ方面に計り其の精力を費してゐましたが、此の頃になつてから、それ等は單なる手段、婦人としの生活の最終の目的を達するための單なる道具であると云ふ處に氣付いて來ました。けれども、さう云ふ處に氣が付いたのは極少數で、一般にはまだ〳〵政治上產業上の男女の平等を目的としてゐます。

理想的の役人と云ふのは、何氣なく政府の報告書をひらいた時でも病人又は失業者の數字に目をひきつけられ、其の意義に氣が付き、そして、其の救濟法を直ちに實行に移すことの出來る人間である。（ワラス）



愛の惱みを癒すエレンケイ
―女史の此の頃―

一九一三年に英譯されたルイス●ハミルトン女史の『エレンケイ傳』による外には私共はエレンケイの私生活に付いて知ることが出來ませんでした、そして、其の傳記によつて、曾ては彼女の思想を容れなかつた瑞典政府が、遂ひに、彼女の主張の正當なる、又、其の價値の大なるを認め、其の功勞に報ゆるため、瑞典中の絕景の場所オンベルグ山の麓、ヴエッテルン湖畔に一ッの廣壯なる邸宅をしつらへ、女史の六十歲の誕生日を期して其れを女史に授與したこと、そして、女史は其の邸宅をゆく〱は疲勞した勞働婦人の休息所に宛てようとして居られることを知りましたが、以來、私共は女史の消息に付いては全く眞暗でありました。

處が、友人から送られた近着の亞米利加の雜誌にアイダ・クラークと云ふ婦人のエレンケイ訪問記が出てゐました。長い間、空を閉ざしてゐた雲が切れて遙かに星が現れた時のやうな氣持ちで私は此の世界的偉婦人の近狀を知ることの喜びに胸が躍りました。そして先づ何は置いても一代の大先覺者私共同性の光りである此の戀愛哲學者の健在を祝そうと思ひました。それ　ら女史の健在に喜び躍る心をもつて、女史の近狀を皆様にも御知らせしたいと思ひました。女史の現在の生活が皆様の御目に生き〳〵と映るやうにクラーク女史の訪問記を其のまゝ譯出することに致しませう。其の訪問記は

愛の惱みを癒すエレンケイ

と題し、そして、小みだしには

エレンケイの信條

（一）

◎男の俘虜になりたいと云ふ元始時代の婦人が持つて居た慾望が現代婦人の性情のうちにもまだ生き殘つてゐる。

◎大抵の男は生産者としては彼の最善を盡すが、併し、戀人としての努力を怠つてゐる。

◎多くの人は結婚を、唯單に、性慾の苦痛から逃れる一つの手段だと考へてゐる。

魂に惱みを持つ巡禮者が其の悲しみを負ふて世界の隅々から此の偉大なる戀愛哲學者の書齋、則ち、戀愛研究所に集まつて來る。

としてあります。以下クラーク女史の言葉であります。

南瑞典の山の中の一見して恍惚せしめられる湖水のふちの繪に見るやうな美しい山荘の一室に仕事に餘念のないエレンケーを私は訪ねた。それは彼女の書齋、則ち、世界に二つとない戀愛研究所である。

エレンケーは七十四歳である。彼女は一度も結婚をしたことがないにも拘らず、結婚問題、男と女の關係と云ふ大問題に付いて彼女程多く書いた婦人は世界中に一人もない。從つて、婦人に及ぼす彼女の勢力は素晴らしいもので、世界のあらゆる方面から、丁度、生理上の病人が有名な醫

（二）

◎一人の男を一生涯自分に繋いで置くことの出來る婦人の一つの秘訣は、今日の處では、彼女が決して疲勞しないと云ふことである。つまり、彼女は一人で千人の婦人の代りが出來ると云ふことである。

◎世界が必要とするものはより多くの愛とより多くの食物である。

◎盲目的に子供に計り沒頭する兩親は、大抵、子供のための好伴侶でない。

者を訪ねて行くやうに、魂に惱みを持つ婦人患者が絕へず彼女を訪ねて行く。私が彼女を訪ねた時にはさう云ふ魂の病人が六人彼女の許に集まつて居た。其の婦人達は皆それ〳〵の別な國から、魂の病氣を癒して貰ふために此の稀らしい偉婦人の祠を禮拜にはる〳〵旅して來たのである。

どんな婦人もエレンケーに逢つていゝ、いゝ、からつぽうな心で歸へると云ふことは決してない。誰にでも行き渡る博い愛、無限な同情深くそして敏捷な理解力あるケイ女史に唯單に逢ふだけで、つまり、彼女の精神に接したゞけで、婦人達は自分の求むるものを得るのである。

（三）

◎もし、凡ての婦人が戀愛に迄進まずに單なる友情に滿足してゐるならば、此の世界に春の來る時はないことになる。

◎不純な婦人よりも、純な婦人のために正路を見失ふ男が多い。

◎戀愛關係は詩で表現すれば神秘であり美であつてそしてこれを散文で表現すれば人は不道德だと云ふ。

◎婦人の內部にある矛盾した者が男の心を擾亂する。

ストックホルムから終日旅して私は歷史的に有名なアルバストラ村に夕方到着した。瑞典政府がケイ女史の六十回の誕生日に女史に授與した山莊がある村へ。其の山

莊の近くには此の國で最も古いアルバストラ寺院の驚くべき美しい舊蹟があるし、又中世紀の大改革者セント●ブリゲツトを祀つた祉があるので有名である。そして、ケイ女史は此のセント●ブリゲツトと度々比較されたのであつた。

それは、實に、美しいそして平穩な單純な農村である」凡ての草木、凡ての家が大藝術家の手になつた繪畫のやうである。

（四）

◎種族のために生き、そして、苦しまねばならぬ婦人の必要が彼女の愛を男の愛よりも、より純粹に、より高尙に、より深く、より忠實にする。

◎母としての感情は最も肉感的なものである。そして、其れ故に、最も精神的なものである。

◎人は自分で愛すだけしか愛されない。

◎男と女の關係の價値は其の男自身と女自身の價値以上のものではない。

其處へ來て始めてケイ女史の『沈靜』と云ふ一文の意味が分つたやうな氣がした。女史が其の文中に『私は田舍に寂寥の中に住むように生れて居る。其の寂寥に養はれて私は社會的に活動する力と公共的感情を收得する。』と云つてゐる意味がはつきりして來た。

途中　私は一人の若い愛嬌あるフインランド婦人に出逢つたが、彼女はケイ女史の

命を受けて私を出迎へに來て呉れたのである。其處から『ストランド』(ケイ女史の家が水邊にある處からさう呼んでゐる)迄、三四哩の道を私達は連れ立つて歩いた。巷の喧噪を遠く離れて住んでゐるケイ女史には三四哩の道は一跨ぎだと云ふことである。

そして、女史は世界の隅々から來る郵便やストックホルム市からの電話便を受け取りに毎日のやうに三四哩の道を歩むと云ふことである。(女史の家は余まりに邊鄙であるために郵便や電話が行かないと相像する。)又綠の深い其の長い道をケイ女史は喜んで歩むのだそうである。私の足許が危いので出迎への婦人が私の手をとつて呉れた彼女に助けられてやうやく嶮岨な個所を通り越してホッとしてから、『ケイ女史は始終此の道をお歩きになるのですか? こんな嶮しい處を登つたり下りたりなさるのです

(五)

◎愛に關する生きた文字は血液で書かれればならぬものである。

◎婦人の愛は精神から感能へと進んで行く。そして時とすると其の感能へ到達しない場合がある。これに反して、男子の愛は感能から精神へと進んで行く。そして、時とすると其の旅を完成せずに終る。男と女の間に存在する此の相違が、たび〳〵、男と女と兩方を苦しめる。

か？』と私は聞いた。すると、その婦人は笑ひながら、『エー、エー、ケイ女史は私達若い者よりも餘程かる〲と此處を登り下りなさいますよ』と答へた。

此のフインランド婦人は國許へ二人の子供と夫を殘して、唯、一言ケイ女史と話したいためにはる〲女史を訪ねて來て居るのである。そして、彼女は云つた。

『ケイ女史に御目にかゝつてから此の人生がまるで別なものになりました。非常な苦しみと悲しみを持つて來たのですが、ケイ女史が私の魂からそれ等の煩しいものを皆除去して下さいました。私は、もう、フインランドへ歸つて夫と子供達と一所に幸福な生活を送ることが出來るようになつてゐます。』

靜かな道の角を曲ると、急に、大きな門があつた。そして、其の向ふに赤い瓦の屋根と窓に白い扉をつけた家が、丁度、山腹に塡めた寶玉のやうに見ゆる。そして、すぐ目の前の湖水は西日を一杯浴びて大きな鏡のやうに光つて居る。ケイ女史は優しく私の手をとつて迎へ入れて下さつた。

それから、三十分後に私達は晩餐の卓についた。ケイ女史と私と六人の別々な國か

ら來てゐる魂の病人と。そして、料理に用ひられたものゝ一切、飲物の原料である苺からデザートの林檎迄が女史の屋敷内で培養されたものであつた。單純な夕飯がすんでからケイ女史は私の方を向いて、妙な英語で『まだ日がありますから暗くなる迄皆さんで散歩しませう』と云つた。ケイ女史が、別々な國の婦人達に別々な言葉で話されるのを聞いてゐるのはなか〳〵面白い。フインランドの婦人が女史のために大きな灰色の肩かけと重い靴を持つて來た。いよ〳〵出かける時に誰やらが太い丈夫さうな杖を女史に渡した。けれども、女史は笑ひながら、『私はまだ杖を必要とする程老ひて居ません。』と云つて、そして、山道に慣れない私に其の杖を借して下さつた。

　私達が山道に差しかゝつた時には太陽は山のかげにかくれた。けれども、紫色の夕光が私達の目の前の美しい景色をかすめてゐた。ケイ女史は折り〳〵足を止めて特別に美しい景色などを私のために指さゝれた。やがて、私達は農夫の一家族が、まだ、畑で一生懸命働いて居る處へきた。すると其のうちの一人の男の子がケイ女史の姿を見つけて、愉快そうに聲をかけた。ケイ女史も晴れやかな聲で其れに答へられた。す

ると、其の少年は「ケーさん、あなたんとこの犬によろしく云つて下さい」と叫んだ。聞けば此の少年の叔父が米國のシカゴに居るので、後に渡米する準備として其の少年に女史は毎晩英語を教へてゐるとのことである。實に、世界に其の名を轟かせてゐるケイ女史は其の村内にあつては單なる一個のケイさんであつて、無學文盲な農夫からも小さい子供達からもケイさん／＼と呼ばれて、全く、親しみ合つてゐるのである。

實に、ケイ女史の偉大さを其の時私はしみ／″＼感じた。私達が其の紀念すべき散歩を終つて『ストランド』を近くした時にケイ女史は云つた。

『人間の主觀には二種あります。其の一種は自分自身を一歩も出ることが出來ない主觀、つまり、自分以外のものを見る能力もないし、又、そうすることが嫌いな小さい魂です。そして、もう一つは他人のことを自分のことのやうに思ふ廣い心、つまり、大きな魂、大人格です。』と。

諾威から來てゐる婦人は若くて美しい、けれども、悲しみのために沈んでゐた。

彼女は、實は、ケイ女史に面會するために十日間程、此の村の農夫の家に宿をとつてゐたのである。と云ふのは、ケイ女史を訪問する人が多く、忙しいし、且つ又、女史は新しい戀愛病者を迎へるために自分の心の準備が必要なので其の準備が出來る迄は待たして置くので、是非逢はうと思へば可なりの日數を待たされる。それで、此の村ではケイ女史訪問者のために商賣があるやうになつたと云はれてゐる。そんなに待たされても、併し、ケイ女史でなければ自分の難しい問題に解決はつかないと云ふ考へから、待つて居る。中にはケイ女史に逢ひたさの一念から旅費を造るために働いてそして、いよ〱女史に面會と云ふ時には一文なしになつてゐる。諾威の婦人は其の一例である。併し、長い間の苦勞も、一度、女史の寛大な精神に觸れ、溫い同情に接した時には其れ迄の苦勞は忘れてしまうのみならず、それ迄、胸を一杯にふさいでゐた苦惱の重荷も輕くなると云ふのが凡ての訪問者の經驗であり、中には、ケイ女史に接したゞけで、今迄、何を自分は若しんでゐたかが分らなくなると云ふのもある。

其の村へ來てから十日も待たされてゐた諾威婦人がいよ〱ケイ女史の家へ迎へら

れた時に女史は、美しい、けれども、やつれた其の婦人の髪を優しくなでながら、諸威語で『あなたは私のうちに二三日滯在なさい。そうすると、必ず私があなたのためになつて上げることが出來ます。』と云つたそうである。後に、私が其の婦人に付いてケイ女史に話しかけた時に、ケイ女史はかすかに全身をふるはせた、丁度、醫者が恐しい病源を探し出した時のやうな興味と興奮で彼女の顏は輝き、そして、彼女は云つた。

『あの婦人は愛の缺乏から苦しんでゐる。愛の生活には平和が必要である。なぜなら愛の生活には夢がなければならない。けれども今日のやうに、產業が人間の凡ての活力を殺ぎ、生活の意義すらも忘れられて居る勞働萬能主義の狀態では愛の價値は下落してしまう。そして、現代の產業主義は婦人の容貌の美、作法の美を奪つてしまう今後、現れなければならない新しい型の婦人は、勞働のために女性の美を殺いでしまうのでもなく、又、身なりを飾ることを專門にしてゐるのでもなく、其の兩極端を避けた活潑な同時に女性美を保存してゐるものでなければならない。』と。

其の六人の婦人のうちの一人は非常にもの靜かな、そして、悲しさうな獨逸婦人であつた。彼女は食卓の上の皿などをかたづけてから大きな立派な犬の食事を用意し始めた。私が彼女に興味を向けてゐるのを知つてケイ女史は獨逸語で彼女に、「あなたが此處へ來てから三週間位になりますかね?」と云ふと彼女は「本當に驚くべき三週間全く新しい世界の三週間でした」と答へた。此の婦人もいよ〳〵ケイ女史に逢ふことが出來た時には、もう、一文なしになつて居た一人で、彼女は貧乏と不幸な結婚から苦しんでゐたのである。ケイ女史が彼女に話してゐることの全部を私は理解することが出來なかつたけれども、思ふに其れは次のやうなことであつた。

「人生は結婚と死計りではない。結婚から死迄の間には種々雜多なことが起る。故に「どんなものでも夫婦の間を裂かうとするものは不善であるから、さう云ふ分子は萬難を排しても撲滅しなければならない。これに反して、夫婦關係を濃くしようとするものは、皆、善である。」と云ふ考へは確かに一部の眞理で、此の人生を最も單純に云ひ現したものである。けれども、我々の生活にはもつと大きな眞理が必要で、そし

て、それを得るのは、又、それだけ高い價を拂はなければならない。又、婦人は、よく夫を戀すると云ふよりも、むしろ、戀を戀すると云ふことがある。或ひは、感能に裏切られると云ふことがある。或ひは、又、朝の露のやうに儚ない一時の感情に支配される。そして、間もなくそれは消滅してしまう。であるから、結婚當時こそ本當に自分の夫だと思つて居る男が二三年のうちには全く他人のやうになつてしまう。彼女の感情も考へも全く變化してしまう。』と。

エレンケイにとつては働くことが宗教である。女史は、どんな人でも働くと云ふ義務から逃れることの出來ない未來があることを信じてゐる。婦人が遊惰な生活を送つてゐたのでは、決して、男子と同じやうに智識的に倫理的に發達することは出來ないと云つてゐる。働かない婦人は必ず何かの種類の奴隷になる。結婚を衣食を得る手段と考へたり、又は、自分の生活の空虚を滿すために、享樂主義に傾いたり、冒險を崇拜したり、又は、沒理想になつてしまう。そして、其のうちでも最も大きな危險は冒險的に遊戲的な結婚を斷行することであると女史は云ふ。

ケイ女史は、今も昔も勞働婦人の利益と云ふことを常に念頭に置いてゐる。不公平な條件の下に働かされてゐる勞働婦人のために不平の聲を社會に上げた第一人者である。で、瑞典政府が女史の老後を養ふ休息所として女史に授與したヴェテルン湖畔の邸宅は女史の最初の考へであつた通り勞働婦人の休息所となつた。勞働婦人であつて病氣になつたり、疲勞したり、貧乏のために休暇をとることが出來なかつたりする婦人達をいつでも迎へて休養させるやうになつてゐる。そして、さう云ふ婦人達から一文もとらなくても其の家の維持は出來るやうになつてゐて、其の上に、熟練ある家事管理婦があつて、何時でも、何一つ不都合のない、何時でも、疲れた婦人を迎へ入れられるやうになつてゐる。

ケイ女史は、歐州に於て、言論の自由の原理を擁護した最初の一人であつた。そして、其のためには隨分烈しい攻撃を受けたのであつた。けれども、後には瑞典衆議院議員の立候補を慫慂されたことがある。併し、女史は實際政治の活動には自分は不向きであると云ふ理由の下に其れを拒絕した。

ケイ女史の哲學は、結局、個人主義である。女史は自己實現の學説を主張して云ふ『世界の發達の第一歩は精神の成長である。けれども、社會はいはゞ思想の墓場になつてゐる。過去及び現在は一代に於ける最高なものを埋め、大多數の人は其れを顧みもしない。人生を更新する眞理は、いつも、因習のために踏みつけられてゐる。』と。又、云ふ。『人間を救ふものは基督の十字架ではない。人は自分で苦しんだ十字架を持たなければならない。なぜなら、生活することは大多數にとつては苦しみである。そして、其の十字架は恐らく、高い處にも低い處にもある。』と

ケイ女史は倶樂部の仕事を好まない。けれども、既婚婦人の財產擁護會と、もう、一つ勞働婦人倶樂部には關係してゐる。

個性尊重と云ふことが女史の夢みて居る理想社會を建設する生命の原則である。つまり、平等と云ふことではなく、併し、凡てに對する機會均等を通じて四海同胞主義は實現すると云ふのが史女の信仰である。

社會員が個人として完全になればなつたゝけづゝお互ひを理解するやうになり、共

同せざるを得なくなる。そして、同胞主義が強くなればなる程、理想社會の大目的に近づく。則ち、最大多數の最大幸福と云ふ處に達するのであると女史は云ふ。

ケイ女史の思想は大膽であつて偶像破壞的であるけれども、併し、常に哲學的の落付きがある。從つて、感情主義な處が少しもない。そして、女史の著作の目的は、殆んど、凡ての論客の特長なる僞善主義と剽竊主義に對する深い反抗である。實を云ふと私は、數ある女史の著書のうちから、大した感動は受けて居なかつた。けれども、あの夕刻の散步の時に、農夫の子供と言葉を交はされた時の女史の聲を聞いた時と、それから、ストーヴの火の前で、苦惱を持つ婦人達に對する同情と理解ある女史の顏を見た時に、本當に女史の非凡な處を私は見たのである。又、壁にかゝつてゐる繪畫のうちに、床の敷物のうちに、又、單純な家具のうちに女史の偉大さは現はれてゐる。それ等の繪畫や家具は女史が父の家に居た時から持つてゐたものである。女史の偉大さと愛すべき點は、確かに、其處にあることを私は知つた。そして、女史の哲學と信仰を一言につゞめて云ふならば、それは、『愛、世界の平和、單純な生活』であらうと私は思ふ。



婦人参政權の賛否

婦人参政權の賛成者は三段論法を以て其の必要を主張する。即ち、

（前　提）男子が政治の綱を造つた。

（小前提）女子は男子と平等である。

（結　論）それ故、女子も政治の綱を造る仕事に參加すべきである。

で、これに付いての賛否の議論はいろ〳〵あるが、それをしめくゝつて見ると次のやうになる。

賛成者　投票權は國民としての特權であるから私は其れを要求します。

反對者　投票權は負擔であり、厄介であるから私は其れを要求しません。

贊成者　要求するとしないとに拘らず凡ての人が投票權を持たなければなりません。

反對者　持つ持たないは各々の自由であつて誰でも其れを强ゆる權利はないでせう。

贊成者　政治に參與することは國民としての義務であるから、誰でも其の義務を盡さなければなりません。誰でも其の義務から逃れてはなりません。

反對者　私達の義務が何であるかと云ふことを私達は自分で定める權利を持つてゐる筈です。それに、今、あなたは投票權は特權だとお云ひでした。もし、本當に特權ならば、なぜ、あなたは其れを人に强ゆるのです。私達は自分の上に特權を投げつけられることを好みません　つまり、無理無體に押しつけられたくありません。

贊成者　どうもあなたは投票權が特權であることを了解して居ないようです。

反對者　其の問題に付いては私達は私達の意見を發表する權利を持つてゐます。もしあなたが仰有るやうに私達婦人が有効に投票し得るように聰明であるならば、私達は又投票權を拒むことが出來る程充分聰明である筈です。もし、そうすることが適當と見たならば、

贊成者　男子は投票權が特權であると考へて居ます。特權であると思ふものですから自分等のみ持つて婦人に其れを拒んでゐるのです。

反對者　あなたが仰有るのに反して、男子は投票することは負擔であるのを知り、そして、婦人に其の負擔を負はせまいとしてゐるのです。

贊成者　けれど、私は男子を呪つてゐます。

反對者　私は男子に感謝してゐます。

（他の贊成論者が横から口を入れて）

他の贊成者　私は男子を呪つてゐません。私は、むしろ、男子を可哀想だと思つてゐます。彼等は政治上の負擔に耐へられなくなつてゐます。ですから、私達婦人が手傳つてやらなければなりません。

反對者　男子は私達婦人が手傳はなくても、彼等の義務は彼等自身で充分果して行けると私は思ひます。

贊成者　婦人に參政權を拒む男子はタイラントです。

反對者　私は、男子の參政權論に付いて、私が考へてゐることを公に云ひたくありません。

贊成者　男子は私達婦人の手を借りなければ到底社會を救ふことは出來ません。男子の政治は不完全で、そして、腐敗してゐます。

反對者　政治上の腐敗を除去するものは正義の觀念に富む男子です。そして、其の男子を造るものは家庭に於ける婦人です。政治の改革は其處から始めなければなりません。

贊成者　政治は國民全體にかゝはる問題です。

反對者　政治は男子の賭奕です。

贊成者　そんなことはありません。投票權は特權ですから、一國民として、我々婦人も持たなければならないものです。

反對者　いゝえ、投票權は負擔ですから、其れを負ふに適した者にだけ持つてゐて貰へばいゝのです。

賛成者　いゝえ、投票權は特權です。

反對者　いゝえ、投票權は厄介なものです。

賛成者　あなたが何と仰有つても投票權は特權です。

反對者　いゝえ、そうではありません。

賛成者　何でもいゝです。私は要求します。

反對者　私は要求しません。

（マーテン夫妻著『女權主義』の中から）

偏見のために、私共は特種の人生觀に賛成したり反對したりします。けれども、私共は眞實な他人の意見を愼重に考へて見ることによつて自分の偏見を直せば直す程自分の意見が正確になります。



クロポトキンは果して革命思想家の巨頭か

クロポトキンと云へば、すぐ、人は革命思想家の巨頭であるやうに思ふ。併し、これは誤解ではないだらうか？　今、世界が見るやうな、卽ち、革命家としての彼は新聞雜誌が造り上げたクロポトキンではないだらうか？　云ひかへれば、新聞雜誌が彼の思想の全部を見ずに烈しい處計りを引きぬいて世界へ紹介した結果今、世界が見るやうなクロポトキンに彼がなつてしまつたのではないだらうか？丁度、アインシユタインの場合と同じではないだらうか？　アインシユタインがニユートンの說をひつくり返へしたと云ふので一時大騷ぎであつた。けれども、實はアインシユタインはニユートンの說を補足したので決してひつくり返へしたのではなかつた。唯新聞がそうしたやうに騷いだゞけであつたのだつた。

クロポトキンは多方面の人であつた。

彼は博物學者、科學者、歷史家、經濟學者、そして、自稱無政府論者であつたが併し、彼は實は哲學者であつた。そして

彼は最も熱心な基督教徒のやうに、踏みつけられた國民のために自分自身を捧げてしまつた人である。基督教が其の教への眞髓である有益な實際的な同胞主義を踏みつけられた國民の中へ植へつけようとしたと同じやうに、彼も其の情操を、壓迫し盡されてゐる國民の中に養成しようとしたのである。そして、それは一八八五年に出版された『青年に與ふ』と云ふ彼の著書のうちに最も明らかに現れてゐる。此の著書は國民のための彼の宣傳の故に投獄されてゐる間に書いたものである。

　最後は腕力によらねばならぬと云ふ彼の思想は穩かでないようであるが、併し基督でさへ、金貸しのテーブルをひつくり返へしたり、鞭をふるつて神殿から人々を追ひ拂つたことがあるのを我々は記憶しなければならないだらう。

　一體、哲學と云ふものは一般人が考へてゐるやうに、現實の世界から離れた有閑階級の智力上の娯樂物ではない。尤も哲學の進化には無數の度がある、併し、或る種類の哲學は大學の教授に必要であると同時に勞働者にも必要である。そして、クロポトキンは彼の『相互扶助論』に於て、其の實行哲學を取り扱つてゐる。其の中には、所謂形而上學の要素はなくつまり、一つの平凡な理論が發表されてゐるのである。そして、それは『相互扶助』と云ふこと、其の相互扶助は『相互競爭』及び、『適者生存』と同じく、生存競爭には有力な要素であることを主張したのである。そして、其の『相互扶助

論」には其の證據が澤山擧げてある。そして、其の證據の價値は彼が觀察して得たと云ふよりは、彼が外のことを研究してゐるうちに不圖發見した事實によると云ふ處にある。

クロポトキンの心に相互扶助が進化の第一要素として現はれた時に、彼はそれを相互競爭の思想と並べて置いた、此の兩者のどちらもが自然界に於ける事實であるが、併し、其の要點はどちらの方が比較的大きな事實かと云ふことである。で、彼は彼自身の種々雜多な經驗から、つまり彼の、貴族として、旅人として、囚人として、社會に捨てられたものとして博物學者として、歷史家として、及びあらゆる國のあらゆる階級に接觸した經驗から、相互扶助が文明の發達に重用なるものであることを認め、そして、其の理論を世界に發表したのである。

併し、現代の全體としての傾向は其の思想に反對してゐる。政治的、社會的、及び經濟的の構造の全部が其れには反對である。ダーウィンには無頓着な人でも放任主義の名によつて競爭と云ふことには全然贊成である。そして、此の競爭は動物界よりも人間界に於て一層烈しく一層殘酷である。勿論、動物は食物のためには場合によつては死ぬ程競爭するけれども、それで止まるが、人間の場合には、もう一歩進んで自分の未來をも質入れする。つまり、競爭を現在に止めないで、未來に於て迄競爭してゐるのである。

人間は彼の一生のうちに獲得したものゝみならず、其の獲得したものから生れ

て來る利益迄をも再び獲得する工夫をした。そして其の上に人間は動物界に存在してゐるような個人的な爭ひを取り去りそして寄生階級を造つた。で、其の自然の結果として、一方には勞働階級を造る必要があつた。名は勞働階級でも實は奴隷の態度であつたのである。其處でクロポトキンの意見によると、競爭的產業界の存在の基礎は食ふにも困るやうな民衆から成つてゐるのである。

今日に於ては、死を賭して、否、未來を賭して迄の烈しい競爭が國民間に、階級間に、及び、個人間に働いてゐる。其處で、競爭を賛成して居るものですら其の競爭の慘酷なことには戰慄してゐるであるから、其の競爭の最惡な結果が來る前に其の競爭の原則の片割れである相互扶助の原則を一般が知り、應用することは賢いことではないだらうか？　相互扶助の眞髓は聯合である。如何に競爭の謳歌者でも、一方に存在する此の聯合、及び、其の効力を認めないわけにはいかない。のみならず、彼等と雖も無意識のうちに其れを推奬してゐる。

如何なる國に於ても、政府の形式は何であれ、實際の權力は財政家と商人の手に歸してゐる。そして、有產者は無產者の團結をいつも喜ばない。其處から生れる力を恐れるからである。處が、よく觀察して見ると無產者をいつ迄も無產者にして置かうとする有產者は、心からの富者ではなく、むしろ、一時の富者、則ち成金である。成金は最近に於て、やうやく財產を得たので、無茶苦茶にそれを離

すまいとする、そして、無産者に力が出來ると其れを離さなければならなくなるかも知れないことを恐れてゐるのであ る。クロポトキンは彼の『佛蘭西革命論』のうちに其の事實をよく現してゐる。

最大多數の最大幸福は一般人の運動によつて相互扶助の生產狀態が安定した時である。たとへば、歐洲に於て、中世紀中至る處に盛んであつた自由都市建設の運動の時であつたと云はれてゐる。そして、これを十六世紀の終りに佛蘭西の至る處に起つた百姓一揆に比較して見ると其處に多くの共通點があると云はれてゐる。

一體、ギルドと云ふものは無產階級の聯合の自然の形式である。ギルドが歐羅巴亞佛利加及び亞細亞に迄も擴つて行つて、何千年の間、出來ては無くなり、無くなつては出來してゐたのは、其れが人間の深い要求に根ざしてゐたものだと云ふことの證據である。歐洲の中世紀の都は精神的にも物質的にもギルドによつて建てられたものである。ギルドは常に自治制であり、其の自治と云ふことが生命であつた。

自治、自由勞働、保證された生活の必要品、かやうなものが中世紀に於ける國民運動の結果であつた。そして、これを成功させたものは部落々々の相互扶助であつたのである。

相互扶助の下には大きな社會は出來ない。これに反して、競爭の方は範圍が廣くなるから自然と大きな社會が出來ることになる。そして大きな範圍を納めよう

とすれば官僚主義が必要になつて來る。

クロポトキンが政府に反對した理由は今の政府が官僚政府であること、そして官僚政府は熱情も良心もないと云ふこと從つて、人間を機械的に取り扱ふこと、そして、それは國民を潤ほさないこと、又、遠くの方から納めなければならないので、土地が異れば國民の心理も異つてゐても、それに適合するやうな施政が出來ないこと、都會人でゐて農業地を納めようとする處に失敗の原因があること、等である。

第一、官僚政府の行政と云ふものは事實と並行しない。第二に、或る事柄の原因が度々誤解され、從つて、誤まつて處置される。第三に、さう云ふ行政は無駄であり、國民の進歩の障碍であり、又、國民の實情に暗い結果は不公平になると云ふのである。こう云つて來ると、そんなら小國であつて國民全體が有効に政治に參與しなければ自治制は不可能かと云ふとさうではない。聯邦精神、又は、國際精神と云ふものによつて大國は納めることが出來る。精神と云ふことはものゝ根元と云ふことである。中世紀の自由都市を可能ならしめたものは民衆の精神であつた。佛蘭西の革命を可能ならしめたものも民衆の精神であつた。

處で、今日の大抵の國の國民の精神は停滯してゐる。そして、其の原因は間違つた敎育にあるのである。つまり、智力萬能主義であつて人格を蔑視する處に其の原因があるのである。そして、それが無責任の增長となり、競爭を烈しくする。

凡ての學校に於て、競爭と云ふことが生命のやうになつてゐる。

今日の青年に缺けて居るものは智力ではなく、忍耐力と正直と理想のための自己犧牲と云ふことである。其の結果として、幸福な生活の根本は内部から發達するものであると云ふことを見得ない。

中世紀の勞働者は彼等自身を組織した。彼等自身の法律を造り、彼等自身其の責任を承諾した。佛蘭西國民は所謂代議政體が設定される前に自ら行政してゐた。彼等はものを考へるのみならず考へたことを實行した。都市であれ、地方であれ區別はなかつた。實に、利己主義を捨てゝ共通の幸福を計り、其れを實行した。平等の精神は自己のために他人を利用する心とは兩立しない。又、無責任は決して自治制とは兩立しない。

それで、クロポトキンの見地から考へると今日の勞働運動の一大缺點は責任を缺いてゐると云ふことである。又、運動の指導者等には其運動の義務を自身に引き受けて百難を排しても、必ず、正義を打ち立てようとする準備がない。又、或る指導者は國家のための勞働運動と云ふけれども、併し、それは主もに特種な團體の利益賃銀問題にのみ關係してゐるだけである。從つて、勞働運動は國民の運動ではない。

凡ての大宗教の運動は國民全體の上に積がつたものである。凡ての自由のための戰ひは全國民の運動であつた。故に、世界の平和も聯合した諸國民の運動を通じてゞなければ得られないものであらう。

（三十九頁へつゞく）

時事批評

ラッセルの「文明再建」に附て

慶應義塾でラッセル教授が講演された『文明の再建』を私は直接に聽いたのではない。K・S氏の筆記されたものを讀賣紙上で讀んだゞけである。それによるとラッセル教授は文明の定義を物質的方面と精神的方面との二樣に分けて居られる。そして其の物質文明は一九一四年に勃發した世界大戰と共に全く崩壞すべき運命に立ち至つたにも拘らず、『現實はどうであらう? 人々の猜忌、憎惡、鬪爭は大戰の終つた今日に於ても依然としてその影を潜めず國際的の衝突は機會のある每に切迫して來てゐるといつたやうな有樣で、かうした以前にも增して兇惡な報道がその日〳〵の新聞を通じて明瞭に窺はれるではないか? 何といふ淺間しい現實ではあらう? 折角我々が努力して無くなしかけた力が、再び我等の間に現はれて、而かもそれが日每に强められ、深められて行かうとは! 其處に我々の解決す可き當面の問題が橫はつてゐるのである。

『若し我々にして今のうちに此の問題を解決することがなかつたならば、我々は

近き將來に於て更に一層怖る可き事實に面接することが避け難いであらう。若し現在の調子で人々の憎惡が此の儘深められて行き、同時に戮殺器具の製造がこれ以上巧妙になつて行つたならば、その結果は果してどうなる事であらう？　恐らくそれは互ひに身を滅すこと以外に何物をも齎さないであらう。此處に於てか我我は我々の文明のうちに更に一つの新らしい道を見出さなければならない。それは卽ち現在の經濟組織を改造することであり、同時に我々の倫理道德を新らしい形のうちに生かすことであらねばならない』と云ふことには先づ大體に於て同意出來るが、併し、此の局面を轉換せしむる方策として則ち『文明の再建』の一手段として世界共產主義を提唱され、そして『但し、これは自由と正義の精神によつてのみ成し遂げらるゝところのものである。』と云つて居られる處に一言云ひたいことがある。

なぜなら、人間に自由と正義の精神がありさへすればわざ〳〵今日の此の社會組織を變へずとも萬人の生活は幸福になる。

ラッセル敎授の意見を他の事柄にたとへて云ふならば、此處に財政困難に陷つた一家があるとする。其れを整理するに付いて、いろ〳〵な方法を立てゝから、さて、此處にいくら〳〵の金があれば萬事圓滑に解決がつくと云ふのと同じではないだらうか？

もと〳〵それだけの金がありさへすれば問題は起らなかつたのであるにも拘ら

ず。
ラッセル教授の『文明再建』はこれと同じ論旨であるやうに私は思ふ。問題はむしろ、其の金の出處、則ち、其の自由と平等がどうして造られるかと云ふ處にある。そして、人間本能の改造を離れて何處から其れが始まるだらうかと私は思ふ。

世帶の會に就て一言

『諸物價低落の割合に順應し生活日用品の小賣價格の低落を見ざるものあるは其原因一二に止まらずと雖も本邦に於ける販賣組織及購買方法の兩缺陷に起因すること大なるは萬人の異論なき所なり然して物價問題就中小賣價格問題は本邦現在の產業貿易の振興策に甚大の關係を有するを以て本省に於ては販賣組織の改善に付ては目下生活日用品の取引系統及其の缺陷に關し其の調査を進め居れるが他方購買方面に關しては從來世人は徒に問屋若くは小賣業者のみを責むるに急にして消費者側の日用品に對する知識の不足乃至購買振の如何を不問に付したる傾向あり然るに物價問題は畢竟此の販賣及購買の兩方面よりの攻究改善に俟たざる可からず。』と云ふ主旨の下に今回農商務省は『世帶の會』なるものを組織しようとしてゐる。もし、これが實際的に活用されるならば其の効果の甚大なることを私は疑

はない。そして、其の活用が出來る出來ないは伊藤商事課長の云ふ如く、一般消費者たる國民、殊に主婦達の覺醒に待たなければならない。私は本誌前號に於て『交換價値と使用價値』の題下に私共婦人の爲さねばならぬ仕事は澤山あるが、差し當り必要なものは家庭と產業、家庭と社會との關係を明らかにして、物價が高い時には徒らに生活難に付いて愚痴を云つて居る代りに、肉が法外に高いと云ふ聲が擧がつたら、そんなら暫くの間肉を買ふのを止めようと云ひ、餅菓子の價が馬鹿に上がつたと云ふ評判になつたらそんなら暫く餅菓子を廢そうと各家庭の主婦が云ふやうになつて私共婦人の力で產業を支配するやうにならなければならない』と云つて置いた。實に、此の『世帶の會』の成功不成功は局に當る方達の努力と相待つて一般主婦の覺醒不覺醒にあることを一言云つて置きたい。

大疑獄と國民

東京市大疑獄の眞相が公にされた今日人は唯々其の醜さに呆るゝ計りであるだらう。處で、其の呆れにもう一つシンニユウをかけなければならないことは、もし、或る新聞が報ずる處が本當ならば、新聞雜誌記者等も亦收賄されたと云ふことである。

『新聞及び雜誌記者等に贈與した金は大

凡何程あるかとの判事の訊問に對し磯部保次はそのあまりに繁に失し、到底口頭を以てしては供述し能はざる旨を述べ筆紙の貸與を求めて大正七年上半期より大正九年上半期に至る間東京瓦斯會社より新聞雑誌記者に支出した金額の明細書を提出したが金八千圓を筆頭に二三十圓の徴に至るまで計上せんか四萬三千餘圓に上り之に林謙吉郎の約四萬圓及び其他を加算せんか實に十萬圓に達して居る然し流石に彼等も新聞及び雑誌記者の懐柔に贈與したる金の名義には窮したるものと見え單に廣告料として新聞には登載せられざる廣告料を支拂つてゐる」

と。これを讀んで私共は、送賄、收賄と云ふことが新聞紙上に現れた人間によつてのみ行はれることだと思つてはならない。一般國民に其の可能性があることを承知して居なければならない。そして、それは公德の廢頽によつて現れてゐるのを思ふ時、私共は何とも云へない重苦しい淋しい氣に打たれる。

石原博士と諸新聞の態度

近頃、喜ばしい現象の一つは石原博士と原阿佐緒女史の戀愛問題を諸新聞が大業に書き立てなかつたことである。尤も或る新聞は可なり大袈裟に取り扱つたようではあつたが、併し、全部の新聞ではなかつた。大方の新聞が、まだ、其の氣

配をも見せなかつた時に、或る一つの新聞が長々と其の戀愛問題を書きつゞつて居るのを見て、私は、又、始まつたか、又、凡ての新聞が騷ぐだらうと思つて内心ビク／＼してゐた。處が、私の豫期に反して、此の事件に關する記事は大抵の新聞があつさりして居た。

　たとへ、事件の當事者が博士であらうが歌人であらうが、要するに、人間の弱點をさらけ出した醜行爲であるのだから其れを天下の大事件でゞもあるように大新聞が大袈裟に取り扱つては本當にみつともない。それに付いては前號にも榮子事件に關して一寸云つて置いた。どうか此の調子が續く／＼を私は希望する。戀愛がどうの、同情がどうのと云つた處があれが醜態であると云ふ事實は免れない。

（三十三頁よりつゞく）

あらゆる階級の一人々々が相互扶助の精神を體得して、そして、合同した諸國民の運動に待つて始めて世界の平和は得られるであらう。

　我が國にもクロポトキンの崇拜者は澤山あるやうである。併し、クロポトキンの此の責任觀念を體得してゐるものが果してあるだらうか？　クロポトキンの考へを却つて裏切つて居はしないだらうか？

幼年時代には母の傍にあつて母の仕事を眞似、少し大きくなつては母の監督の下にお友達と遊び長じては男子と競爭するのではなく、平和と樂しみと秩序と家庭的氣分を世界に豐富にする。一言で云へは、最高最善な女子教育は家庭によつて家庭のために家庭的の教育を受くることである。

（マーテン夫人）



進歩の一要素としての憧憬

ラスキンは、「想像の世界に住む習慣を子供の時から持つて居ることは幸福である。現實の世界の生活に倦み疲れた時に、自ら、造り得る想像の世界に入つて我々は一息つくことで出來る、實に想像の世界に打ち建てた其の宮殿は現世の何ものも犯すことの出來ない唯一の我々の避難所である」と云ふようなことを云つてゐたのを私は覺へてゐます。

實に、此の、現在自分に許されてないものを憧憬する心こそ進歩の源であると思ひます。人間を動してゐる、從つて、社會を動かしてゐるものは人間の二大本能、則ち、食慾と愛慾だと云ふことは一般に認められてゐる事實でありますが、もし、人が食慾と愛慾を得て、それで全然滿足しきつて居るならば、或ひは今日のやうな進歩はなかつたかも知れません。

神話に、又は、御伽話にあるやうな美しい想像の世界を造つて、其處に住んで樂しむやうな餘裕は與へられずに半生を過した私には、さう云ふ詩的な心境を持つた經驗がありませんが、併し、現實的に私も私相當な憧憬を持ちました。そして、それも矢張り進歩の源となつて居ります。私の憧憬には、ものに添ふ影のやうに必ず努力が伴つてゐました。例を一つ擧げて見ますならば、私は一度人間らしい人間の仲間入りがして見たいと云ふ希望を持ちました。後れた人間、時代の落伍者であることの悲哀を味ふのは本當にいやだと思ひました。時代の潮流に乘るにしても反抗するにしても、とにかく時代の潮流を理解し、其の潮流に棹し

て生きて行くことが人間として生きがいがあると思ひ其の境に沈潜んだ頭腦の持主である自分を憧憬し、そして默々としての約二十年間の勉强となりました。其の心境は今日も猶續いてゐますし、今後も亦續けます。

人によつて、憧憬の種類は一々違ひませうが、私としては今も申した通り、憧憬――努力です。自分の持ちたいもの、持つて價値あるものは無代價では得られないと云ふ考へから、憧憬するものに對しては、必ず苦心、努力と云ふ代價を拂はうとしてゐます。

文明は社會勢力の産物だと云ひますが、もし人間に此のあこがれる心がなかつたならば、其社會勢力もなく、從つて文明も無いわけです、あこがれる心があればこそ、人は努力し、奮鬪しました。探險、發明、勞働、學問、藝術の進歩は、皆、此のあこがれる心の結果であります。それから、又、私共の毎日の生活の幸不幸が分れる處は、日々の生活が私共の憧憬するものゝ方へ向つてゐるかゐないかであります。たとへ、如何なる困難が途中に横つてゐようとも、自分の憧憬するものゝ方向に向ひつゝあることが幸福な生活であり其の方向に向ふことが出來ない狀態が不幸な生活であらうと思ひます。憧憬するものが東にあるのに西を向いて歩まねばならぬ時に、其處に、悲しみ、失望、落膽があり、東に向つて歩みつゝある時に、光明があり活氣があり、幸福があるのです。

處で私共は往々單なる一片の雲を見て其れが一ツのオアシスであると信じたり、自分の慾望するものが西にあつたり、或ひは、足許にころがつてゐるのに、東に向はうとしてあせつたりすることがあります。幸福の盃は自分の軒下にあるのに始終戸外を探し廻つて不幸な一生を終ると云ふことも決して少なくないと云ふことや、慾望すべきものを慾望しないで慾望してはならないものを慾望する結果の不幸や、空想の結果の不幸などが澤山あることも忘れてならないと思ひます。

併し、それは、先づそれとして置いて、とにかく、人が或るものを希望する、其れを憧憬すると云ふことは非常な社會力であり、進歩の源であると云ふことは動かすことの出來ない事實です。自分の憧憬するものを現實にしようとするならば、其の途中には必ずいろ〱の障害があります。人は先づ第一に其の障碍物を取り去る必要があります。そして、其の障碍物が取り

去られたゞけ、それだけ社會に改良があり、進歩があるのです。

もし、自分の憧憬するものが容易に得られるならばつまり、自分の現實の生活と其の憧憬するものとの間に少しの距離もないならば、それが社會に及ぼす影響は殆んど感ぜられずに濟んでしまうかも知れません。けれども、憧憬するものと現實の生活との間に距離があり障碍物があるならば、先づ、第一に其の障碍物が取り去られる、つまり、それだけ環境が變更され、改良されます。それだけ、社會は進歩します。憧憬するものと、現實との間の距離、及び障碍物の大きさにはいろ／＼の度があることは勿論でありますが、とにかく、過去を顧み、未來を思ふ力を持つてゐる發達した人程、其の慾望は複雜であり、さう云ふ人の慾望は、たとへ、僅かでも其れを滿すには大いに環境を變更する必要があり、それだけ進歩があるのです。

人は發達すれば發達する程、慾望の數は益々增し、生活は益複雜になります。そしし、大抵の場合ひ、それは、主に精神的、智力的になります。さうなると、一層の努力と、一層長く待つことが必要になります。

凡ての活動が、皆、周圍と戰ふこと、つまり慾望と、其の慾望の滿足を得ること、の間の障碍物を取り去ろう、其處へ到達するに付いての道をなめらかにしようとすることでありますが、今、云つたように其の距離が長ければ長い程、障碍物が大きければ大きい程、其處へ到達するに付いて變化を起す環境の範圍は廣くなります。そして、其の變化の大部分は永久的のものであります。社會を文明化する努力を增すものであります。そして、其のかたちは目的のために手段を造ることであつて、それが直ちに永久的で文明であります。で、さう云ふ手段は其の手段を造つた人を滿足させる計りでなく、猶　永久に他の人々が目的に達する手段となることが出來るのであります。此處に、もう一つ興味ある事實があります。と云ふのは、人間の努力には、其の人の目的としてゐない副產物が出來て、そして、それが進歩に貢献すると云ふことです。自分では社會進歩など云ふことは全く眼中になく、何もかもが自己滿足のために働いて居ながら、それが社會のためになると云ふ事實です。たとへば自己の物質慾を滿たすために儉約をむれとして貯蓄をした處が、それが

業外産業になくてならない資本となつたり、單に自分の嗜好を滿足させるために音樂を學んだり、繪をかいたりしたことが社會を潤すやうになつたりすることです。最高度に發達した人々の外は社會進步など云ふことには無頓着であるのみならず、却つて、社會進步を厄介視してゐる人々もあります。大部分の人は保守主義で新しきを嫌つてゐるにも拘らず、過去、及び、現在に於て社會は駸々として進步して來ました。そしてこれは、今云ふやうに大部分の人々の無意識の努力の結果であると思ひます。いはゞ、進步は人間の智慧の屆かない處にある目的に向つて働いてゐる自然の力でありませう。此の見へぬ處を見ようとして、自然が下して置いた幕を開き、あたりにこもる霧を追び拂はうとするのが科學の使命であります。云いかへれば、人間の無意識な處に深く根を張つてゐる其の動的作用の力を發見して、其れを式に直し、原則を造らうとするのが科學の使命でありますが、併し、其の見へぬ處を見ようとする慾望は、現實とはかけ離れたものにあこがれる人の心から出發して居ります。

生物學に於ては、環境が有機體を變へ、社會學に於ては、人間が環境を變へます。支那の言葉で云ふならば、道が人を造る時代から人が道を造る時代に迄進まなければならないのですが、要するに、動物と違つて人間は、まだ、見ぬものにあこがれる心、理想を現實に引き下ろそうと努力する處に活氣があり、從つて、進步があるのであります。

今迄に申しましたことを、もう一度他の方面から見るならば愉快にはいはゞ成功したのと、成功しないのとがあります。成功したと云ふのは其の　があるために、直接、物質的環境の上に注がれた努力の結果であり、成功しない方は物質的環境の上にではなく、唯單に、精神的に努力してゐた結果であります。もし、其れが偶々成功した處が、必ず、それは力の微弱なもの、停滯した狀態が造り出されるのみであろうと考へます。

ドストイエフスキーと彼の作中の人物

現代文學の特長は心理解剖であるが、英米の小説に於ける心理解剖の大部分は自然の現象の剖解ではなく、むしろ、淺薄な心理學の敎科書の研究の結果であつて、又、其の敎科書たるものが或る場合には甚だ不健康な性質のものであるに反して、露國の小説に於ける心理解剖は英米のものよりは一層自然で、より多く興味があつて、そして、より深刻だと云はれてゐる。實に、其の點に付いては佛蘭西の小説も露國のものよりは劣つてゐるが、其の露國のタイプの代表的のものはドストイエフスキーの作である。

ドストイエフスキーは第一心理學の實驗家である。彼は不合理が合理になり、無意識が有意識になり、空想が實際になる處の意識の堺目の研究に彼の努力を集中してゐる。つまり彼の最善な點は確かでない無決定な心の狀態、則ち、矛盾が相並んで存在してゐて、そして轉々として變つて行く心の狀態を最もよく理解してゐる。

それから、もう一ツドストイエフスキーに興味ある點は、絶對價値を捕へようとする彼の苦悶である。彼は神が存在するかしないかを極めようとした。そして、もし、神が存在しないならば、そんならば人間の存在は無意義であるから、人は自分の存在を破滅させるか、或ひは、自分の意志を絶對の法則とするか、どちらかであるとしてゐる。で、彼は、彼の作中の人物を通して神の存在を承諾してゐる處と否定してゐる處と兩方を云ひ現してゐる。

たとへば、『キリロフ』は『もし、神が存在するならば一切が神の意志であるから我々は其の神の意志から逃れることは出來ない』と云つてゐるし、又、『カラマゾフ』は『神と云ふものはないから新しい人間が神になるのも無理はない。其の新しい人間は全世界に於て最高な位置に登り、そして、必要があれば舊い道德、則ち、奴隷の道德を破してしまう。そして、其の人のすることは何にもかもが法律にかなつてゐると云ふことになり、そして其れだけのものだ。』と云つてゐる。

こう云ふ風に彼は彼の慾望を彼の行爲とする。つまり、神が存在しないとすればあらゆる善惡の絶對標準は外から來る權力か、或ひは自分の其の時々の出來心を基礎とした一時的の價値によつて

定められなければならないと云ふことになつて、此處に、常にヂレンマがある。

ドストイエフスキーの作中の人物は、たとへ、超人であつても此の矛盾から脫することが出來なかつた。たとへば、超人『ラスコロニフ』は老婆を殺してしまつた。殺した理由は老婆が彼を見て笑つた、つまり、彼は嘲られたと想像したからである。實は、彼女の笑ひは善惡を超越した無邪氣な笑ひであつたのだが、併し、彼自身が自分自身の意志の綱にひツかゝつて、其處から脫することが出來ないで苦悶に苦悶を重ねて居た時だつたからである。

かくの如くに、ドストイエフスキーの人物は、皆、明るみへ出よう〳〵とあせつても出られないで暗黑な中に苦しんでゐるのである。彼自身がさう云ふ性質の人間なのである。

彼の精神生活は實に悲劇であつたけれども、併し、彼は雄々しく其れに顏を向けてゐた。であるから我々は彼から學ぶ處が澤山ある。彼は云ふ。『今迄の革命にしろ、社會改革にしろ、要するに、皆、政的の改良に過ぎなかつた。併しながら、此の世界には必ず精神的の革命が來ること、そして其の革命が人類の未來のために新しい道を造り、新しい基礎を築くものであることを信じる。』と。

新刊

◎新婦人問題

東京民友社發行

本書は大正九年夏、國民新聞社の催した婦人講習會の講演を輯錄したものでありますが、私は本書を得たことに大きな喜びを感じます。婦人問題は新聞に雜誌に單行本に隨分澤山出て來ます。けれども、其の多くは大抵皮相な議論か、單なる想像か、揚當りか、或ひは、頰てるための一夜づくりの自稱婦人論者の議論です。で、先日も日比谷圖書館から婦人の讀むべき書物を選擇するに付いての問ひ合せがありましたが、實は私は當惑してゐました。丁度其の時此の『婦人問題』の寄贈を受けて其の內容をざつと見たゞけで、これこそ日比谷圖書館の要求に應ずべきものだと思ひました民友社から『婦人問題講演集』が既に四册も出て居りますが今回の『新婦人問題』は其の問題の選み方に於て又其の價値に於て其の四冊を凌いでゐます。第一講の大限侯の大體論は老人株の現代の婦人問題に對する優れた進步した意見を代表されたもので私達は老人に付いて心配する必要のないことを侯の婦人論を通して知りました。第二講の吉田博士の『家庭經濟論』に婦人問題の出立點を明らかにされたもので其の嚴肅な態度が非常に氣持ちよう御座います。永井博士の『兩性問題』は婦人問題の少なくとも半分を占めてゐる複雜な問題を感情に走らず遠獵に流れず最も科學的に婦人問題の生物學上の方面を明らかにされてゐます。植原氏の『婦人參政』湯原氏の『女子敎育』はそれぞれ御專門の御議論であつて私共が敢へて口をつける必要はないでせう。最後の杉森氏の『思想問題』は近代思想の源泉を親切丁寧に說かれたもので其着實な態度には感謝します。一番で申せば蘇峰先生の序文から始めて六編殘らず皆價値ある文字であります。

婦人問題研究書として實によく諸問題が網羅されてありますが、もし、これに婦人問題の主要部分である子供の本能の敎育者としての母に付ての一講が這入つたならばより有効であろうと考へます。

古きノートより

原田琴子

幼なかりし日
野のはてに
たゞひとり
ながめゐき
そらのあなたを

實家に行きし母やかへると
まちわびて
ながめゐき
山のあなたを

秋の夕べの
さみしさの
やるすべなさに
たゞひとり
おもひゐき
雲のあなたを

×

秋風きけばおのづから
死別れしひとをおもひいづ
こゝろにのころおもかげの
うつろはぬこそ
儚なけれ

×

しづかにくろゝ秋の野の
あかき入日をながめつゝ

うつゝともなきものおもひ
海のあなたの美き國に
あこがれやまぬものおもひ

×

風のながれの
身にしみて
とびゆく雲ぞ
わびしけれ
汐の音ちかき
砂丘に
沈み行く日をながめつゝ
われにもあらぬものおもひ

歴史は、丁度、子供の手紙箱のやうなものです。子供は自分の好きな手紙計りを拾ひ出してしまつて置いて自分の好まない手紙は全く顧みもしないと同じように、歴史家も自分の好む事實だけを取り上げて並べて置きます。

教育社會學（第七回）

交通と人格

人格の光りは其の人の態度から發射されるものです。身振り、顔付き、又は、音聲は言葉よりも精細に其の人の人格を現します。で、クーレーは申ます。

『我々が言葉を交はさぬ先きに相手の心に觸れる方法は第一に相手の顔付き、目や口の動し方、又は、首や手の振り方、或ひは、高かつたり、はつきりしてゐたり、沈んでゐたり、情がこもつて居たりする音聲によつてゞある。始め、それは無意識な運動であるけれども、後にはそれが有識になる。もの云ふ術を學ぶずつと前から赤子は熱心に其れを實行してゐる。』

と、又、エマソンは『有識ではなく、むしろ、無意識のうちに我々は我々の人格を以て人に敎へる。つまり、智識よりも人格の方が人をより多く感化する。』と云つてゐ

ます。

生徒の性格は、敎師又は朋友の人となりによつてかたちづくられます。つまり、言葉によつて受ける感化よりも、敎師や朋友のありのまゝの態度、行爲から受ける感化力の方が强いのです、敎育上、最も重要な德育に關して今日迄發明がなかつたのは、此の言葉以外の感化力が無視されてゐたからです。機械的な智識は其の範圍をいくらでも擴げることが出來るけれども、併し、それは人間の質に影響するものではありません。實に、德育に關しては二千年以前も今も余まり隔りはないのです。

或る級へ、新しい敎師が來てから二三週間後に、生徒達が非常にものごとに丁寧になつたことを認めて、其の生徒のうちの一人の親が、其の娘に其の理由を問ふた處が其の娘は『今度の先生があんまり靜かに丁寧に敎室を廻つて步くので、私達も丁寧にしずには居られないのです。』と答へたと云ふ話があります。

もし、敎育上、人格がそれ程强い要素であるならば、好ましくない性質を持つてゐる生徒を分離しなければならぬと云ふことに付いて私共は今迄よりも一層深く注意を

拂ふ必要がありませう。個人の自由と云ふことに付いての私共の考へに修正を加へる必要がありませう。

特種の缺點を持つ生徒が級のうちに一人あるとします。すると其の一人のために教室の全部が亂されると云ふことは經驗ある教師が皆承知してゐることです。其の教室の風儀は亂されます。教師は徒らに苦しめられます。のみならず、外の生徒は大抵、そう云ふ生徒の缺點を眞似ます。六年間、第一學年に止まつてゐたと云ふ生徒がありました。彼は教師に何にか云はれると、すぐ、兩手で顏をかくして、そして指の間から教師の顏を覗いてゐると云ふくせがありました。すると、其の級の生徒が、皆、それを眞似るやうになつて、其の後其の生徒達を受け持つ先生は其のくせを直すのが一仕事であつたと云ふ話があります。德義上、缺陷があつて校則を少しも守らない二度も三度も落第した子供は外の生徒のために非常に惡い感化を與へると云ふことも注意されてゐる事實です。又普通亂暴な子供は自分を防禦するために益々亂暴になるし、臆病な子供は益々臆病になると云ふことも事實です。

で、いつも校則を破り、同級生を惡化する傾向を持つ生徒は、他の生徒のために退校させ、學校で學び得る特權を奪ひ、そして、さう云ふ生徒のための特種な敎室と敎師が何處の學校でも必要であると云ふ說があります。實際、四五十人も生徒をあづかつてゐる敎師にさう云ふ特種な子供の世活迄させることは無理であります。それは徒に敎室の秩序を亂し、敎師を苦しめる計りで本人のためにもならないのですから。

交通と劇

智力の發達に影響する人格の感化力と云ふことから劇の力と云ふことが出て來ます。劇は實際生活に密着な關係をもつた敎育上有力なものであります。子供等は自分自身を表現したいと云ふ慾望を持つてゐると同時に、生活の經驗をも求めてゐます。ですから、劇中の人物になることは其れ等の慾望を滿すものです。そして、彼等は劇の主人公の精神を捕へ、そして其の精神は永久に彼のうちに生きてゐます。

昔、アゼンでは劇を敎育上最も有力なものだとしてゐました。けれども米國の淸敎

徒は、凡て人の喜びとなるものを其の生活から除去しようとして、此の劇をも排しました。けれども、今日に於ては其の信仰を排して劇を其の生活に入れようとしてゐます。

劇、又は、其の他の公演に於て、表現し得る人格を、活動寫眞は最も金のかゝらない方法で現すことが出來ます。印刷の術が文學に貢献したと同じやうに活動寫眞が劇に貢献したと云ふのではありませんが、併し、活動寫眞は劇の新しいかたちを世界の隅々迄も普及しました。そして、此の活動寫眞は子供達の頭腦に非常な感化力を持つてゐます。子供達は動物の話を聞かされゝば、すぐに、動物の聲や態度をまねるし、野蠻人の話をすれば、すぐ野蠻人の繪を書いて見やうとするし、又、或る敎師が北極に住む土人の話をした處が、放課後、其の話を聞いた子供等が皆あつまつて雪の家を造り、其の土人の生活を實現しようとしてゐたと云ふ話があります。

それが子供の性質ですから、活動寫眞が子供の頭に深い影響を與へるのは無理のないことです。それは破壊的な行爲に對する誘惑を烈しくしたと同時に、建設的な行爲

も奬勵しました。寫眞のために多くの惡戯者が出來たと同時に、多くの賢智も與へられました。で、スタンレー・ホール敎授は『活動寫眞は活字の發明以來の最大なる敎訓的の工夫のものだ』と云つてゐます。又、『人間の生活に革命を起した印刷術の發明と此の活動寫眞の發明とを比較して見ると面白い。印刷術は智識と思想を全世界に普及した。けれども、これは其の効果を擧げるには手間がかゝつた。なぜなら、人が先づ文字を覺へなければならない、文字を覺へたゞけづゝしか智識と思想の普及は出來ない。これに反して、活動寫眞は電光のやうに早い。ものを覺へねばならぬと云ふ豫備などは必要でない。一度に、何千人何萬人の蒙を開くことが出來る。』と、ジョン・コリアは申ます。

交通の仲介物となるものゝ選擇

今迄に擧げて來た交通のいろ〳〵の形式は人の心と心が觸れ合ふ仲介物に過ぎません。處で、有形な力を移す仲介物、たとへば電力を引ひて來る電線と同じく、其等の

仲介物も決して完全なものではありません。つまり漏電があるやうに、それ等の仲介物も完全に一つの心を傳へません。のみならず、それ等の仲介物には抵抗力があるから、こちらで表現したものが其のまゝのかたちで人の心には這入つて行きません。人の心に這入る時には必ず其のかたちがいくらか違つてゐます。

自分を表現するにはありあいのしるし（仲介物）を使用する術を先づ學び、そして其れが自分を表現する有効な手段となるには、練習によつて其れが第二の自分の天性となつて居なければなりません。そして、此のしるしによつて内部生活を表現することは一個の藝術であります。ですから、或る人は。他の人よりも其の能力に於て優れて居ることもあるし、又、他の一方には、鑑識力に優れて居る人もあります。

教育上、大問題の一つは、各々の生徒の必要に此の交通の形式と其の複雑さとを調節することであります。そして、教師が忘れてならぬことは、或る生徒は複雑な交通の形式、たとへば、詩とか音樂とか云ふ形式を用ひたり、鑑識したりすることには不得手でも、併し、其の思想と行爲は優れて居ることがあると云ふことです。

又、文字の數を多く知らず、文章も下手で、小學校の六年級以上にどうしても登れなかつた子供が或る種類の技手になつた處が非常に成功して、後には二つの發明をして其の特許權を得ることが出來たと云ふ例もあります。

或ひは、又、よくものを覺へる頭腦を持つて居ながら、自分一人では何にも出來ない、必ず、人からの說明を必要とする子供があります。人から刺戟を與へられなければ少しも頭腦が働かない子供があることをシユリングは發見しました。つまり、書物地圖、又は、算術の問題を與へられても、さつぱり出來ない。處が其の問題に付いて外の生徒が先生からの說明を聞いてゐるのを聞いて、或ひは、外の生徒が暗誦してゐるのを見て、急に、自分の頭が働き出して正確な答へが出來ると云ふ子供もあります。

交通の形式は便宜上二つに分けることが出來ます。其の一つの形式は顏と顏とを合せて談話を交はすことで、もう一つはまるで顏を合はすことがないのです。前者は顏付き、手つき、聲其の外多くのそれに似た手段を用ひます。ですから、もし、誤解があれば云ひ直すことも出來るし、一つの表現の仕方が失敗だと思へば、他の表現を用

ゆることも出來ます。けれども、後者の方は其處に人間が居ないのであるから誤解があつても其れを解く機會もないし、又、不注意な人には意味が徹底しないこともありませう。併し、後者の利益は前者の場合の突發的であるに反して、前以て準備するから傳へられる事柄が正確であると云ふことです。これに付いてワラスは云つて居ます。

「我々は人の話を聞いたり、人に話してゐたりする時よりも、一人靜かに書齋の中で讀書したり、事務所の机で仕事をして居る時の方が團結による智力上の仕事はよく出來るものである。

「此の思想組織の新しいかたちは人と人との直接な接觸を缺いてゐるから「間接關係」と呼ぶのが便利である。昔風の人と人とが接觸しての思想組織、たとへば委員會、組合、會と云ふやうなものは今日に於ても矢張り存在してゐるが、それが存在する一部の理由は習慣からで、もう一部の理由は、我々の心理の性質は面談することによつて進化すると云ふことである。つまり、文字によつての間接な交渉では我々の全部の力が使用されない、從つて、或る必要な點が不滿足なまゝで殘つてゐると云ふ事實があ

るからである。

『此の昔風の思想組織のうちで、最も單純な最も古いかたちは少數の人が集まつて熱心に或る問題を論じた場合である。そして、其の形式はプラトーの對話のうちに最も發達した點が現れてゐる。

『友達同志が會合した時に最も價値あるものは、智力上の刺戟としてゞすら、粗雜な言葉では到底云ひ現はすことの出來ない程余まりに微妙なるものゝうちにある。で、現代の思想家が新刊物を批評したり、人の實驗したものを證明して見るために一人机に向つて居る時にはさう云ふ微妙な働き現れない。則ち、話しながら微笑するとか言葉とはならない親切な態度などがそれである。又、話しながら何かを考へ出そうとする努力や、其の努力に成功した時の愉快さや、折々の人には氣の付かない程の無言のうちに云ふに云はれない價値がある。』と。

それ等の方法を應用して、如何にして生徒によりよく覺へさせるかを知ることは敎師のために有益であります。智力を計る新しい心理學が、後には、其の仕事をする科

學的の方法を發見するであらうと云はれてゐます。自發的にものを調べ、そして、進步することの出來る子供は、トーローと同じで、普通の談話ですらも刺戟が多過ぎる程感じ易いと云はれてゐます。さう云ふ生徒は教室に於ては臆病で、いつもしりごみしてゐて、暗誦には途中でつかへたり、質問されるとまごついたりします。けれども書物から刺戟を受けたり、又は、内部からの衝動を持つた時には心はしつかりと働き出して、そして、注意がくまなく行き渡り、どんな困難にも躊躇せずに、落付いて其の解釋を試みます。けれども、さう云ふ生徒の數は至つて少ない。大多數の子供の感情はさう鋭くないから、どうしても人と接觸し強い刺戟を受ける必要があるのです。單に、印刷物を見た位ひでは彼等の能力は覺醒しないので、彼等を刺戟し、彼等を指導する人が必要なのです。

さう云ふ生徒は、又、一寸とした困難にぶつかると直ぐ挫ける、つまり、自分から努力して其の困難を切りぬけると云ふ氣力を持つてゐない、人に引きづられて行かなければ進步しないのですから、一人よりも多くの生徒と一所に教へられた方が成績も

あがります。

又、或る種類の子供があります。一寸したことにつまづいて頭が動かなくなる。けれども、其のつまづいた點を説明して貰へば、又、スラ〳〵と通んで行くことが出來る。つまりこう云ふ子供は一匙づゝ食物を口へ入れてやるようにして敎へる必要があります。

ジョンソンは云つてゐます。『暗誦時代を二ッの部分に分けることは有效である。第一の部分では普通のあの定まつた暗誦をさせ、第二の部分になると敎師が生徒の相談役になる。つまり、專門の敎師が生徒と一所にゐて絶へず生徒に暗示を與へるのである。そして、問題に對する興味を、先づ、生徒に持たせて置くならば生徒の頭腦は敏捷にそして經濟的に働く。此の方法が一度ニューアークに於て應用されて以來今日では殆んど合衆國全部に於て應用されると云ふ狀態になつた。』と。

リー博士は彼の『敎育に於ける遊戯』と云ふ著作のうちで云つてゐます。『人間の性質は余まりに複雜であるから、いくらかの控へ目といくらかの秘密なしには堅固な人

格を保つことは出來ない。我々は絶へず自分と世間との關係に思ひを致し、觀測して見る必要がある。人との交際のうちに自分を沒却することは交際其のものをも失ふことになる。なぜなら、無と無が一致するわけがないから。』と。

編輯の後

先日の電氣局の努力日に『花子さんの一日一善』として白晝電燈を消す處の繪が各電車の窓に貼つてありました。白晝の電燈は無駄であることを繪に迄書いて見せて貰はなければ氣のつかない東京市民は、無責任か鈍感か無精か、さう迄世話をやかせることは恥しくはないかと思ひました。

處が、つまらないことに世話をやかせるのは東京市民計りでないことを知つて今私は呆れてゐます。と云ふのは、倫敦のデーリーメルー紙にベルリン市街で巡査が婦人を捕へて着物の腰下が何インチあるかを計つて見てゐる繪が出てゐました。流行に乘じて無暗みに着物を短くして脛をまる出しにしてゐる不謹愼を取り締る處なのです。

又、此の頃の歸朝者の話に、米國婦人が餘まりに異様に顔を塗りたてることが流行するので、或る停車場では巡査が見張つてゐて、普通以上に塗つてゐる婦人をズン／＼洗面所へひッぱつて行つて顔を洗はせると云ふことです。實際、婦人の自覺も前途遼遠であります。

◎毎日九十度以上の暑さで絶へず皮膚の上ににじみ出て來る汗は體がゆだるのかと思へる位ひですけれども、立樹の葉が燒きつけられるような強烈な日光を雄々しく浴びて益々其の色を冴へさせてゐるのを見ると、こうして農作物がズン／＼實ると思つてい、氣持ちです。そして、たとへ、時には苦しくても、矢張り夏は華やかだと思ひます。

校正のために昨晩遲くなりましたから今朝は少しゆつくり休んで居ようう思つてゐるのに昨日始めて鳴き出したホーシンツク／＼があぶら蟬の聲に負けない氣になつて隣の墓地の中で鳴き立てるのでやかましくてれては居られませんでした。此の蟬が鳴き出すと、時々秋の風がコツソリ這入つて來て華やかな夏を追ひ出さうとします。やがて夏はあはただしく去つてしまうでせう。私達は淡い淋しさを感じます。

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十年八月二十三日印刷納本

大正十年九月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一

編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七

印刷人 大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一

發行所 婦人と新社會社

振替東京五三六八八